

東洋炭素株式会社

2017年12月期第2四半期 決算説明資料

2017年8月

東洋炭素株式会社

第1部 連結決算概要	P. 3
第2部 事業構造改革から成長戦略へ	P. 20
APPENDIX	P. 25

第1部 連結決算概要

ポイント1

売上高は、エレクトロニクス分野等の需要回復や円安が寄与し、前年同期は若干下回ったものの、予想を上回る結果に。

ポイント2

利益については、営業外費用において特殊要因の計上はあったものの、固定費削減等事業構造改革の取り組み進展により、営業利益・経常利益ともに予想値・前年同期に対し大幅増の着地。

ポイント3

子会社の持分譲渡・合併契約解消にともない特別利益(3.2億円)、特別損失(0.9億円)を計上。親会社株主に帰属する四半期純利益は、予想値・前年同期をいずれも上回った。

ポイント4

通期は、為替レート据え置き、激しい競争が継続している状況等を勘案し想定。今期は事業構造改革の中核期であり、2018年の目標達成に向けスピード感をもって諸施策推進中。

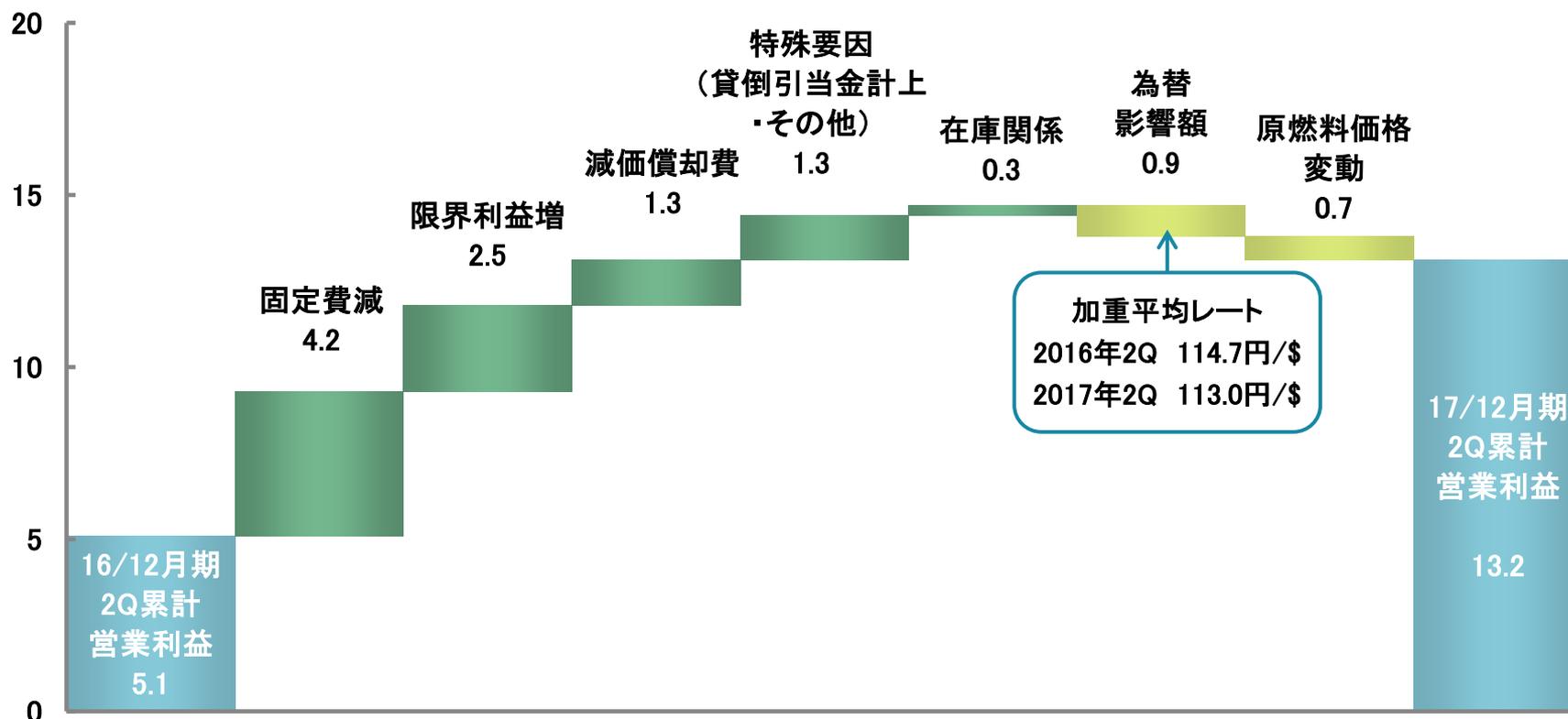
第1部 2. 2017年12月期 第2四半期業績・通期予想

	16/12月期		17/12月期			
	第2四半期累計	通期	第2四半期累計	前年同期比	通期(予想)	前期比
(単位:百万円)						
売上高	16,941	32,464	16,564	▲ 376 / ▲ 2.2 %	32,500	35 / 0.1 %
営業利益	513	652	1,326	812 / 158.3 %	1,900	1,247 / 191.1 %
(売上高営業利益率)	3.0%	2.0%	8.0%		5.8%	
経常利益	257	759	1,130	872 / 338.3 %	1,700	940 / 123.9 %
(売上高経常利益率)	1.5%	2.3%	6.8%		5.2%	
親会社株主に 帰属する 当期純利益	241	284	1,129	888 / 367.5 %	1,600	1,315 / 463.0 %
1株当たり 当期純利益 (円)	11.65	13.71	54.47		77.12	
為替レート	111.9円/\$ 124.7円/€ 17.1円/人民元	108.9円/\$ 120.4円/€ 16.4円/人民元	112.4円/\$ 121.6円/€ 16.4円/人民元		(下期) 105円/\$ 115円/€ 15.0円/人民元	

第1部 3. 営業利益増減要因 (2016年12月期2Q累計 vs 2017年12月期2Q累計)

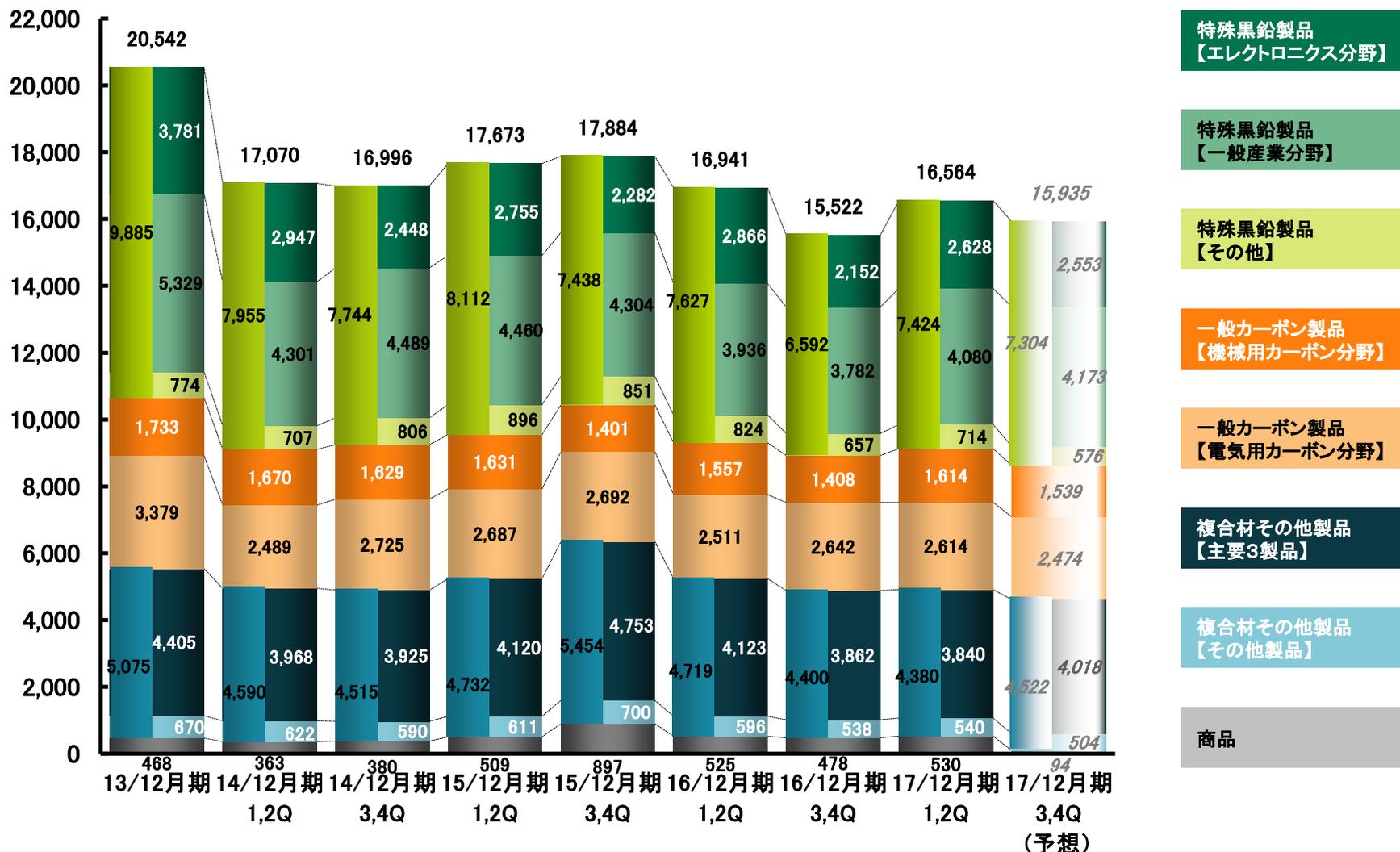
- ✓ 構造改革にともなう固定費削減取り組みが増益に大きく寄与
- ✓ 売上減少も受注構成の見直し等による採算性改善により限界利益率増

(単位: 億円)



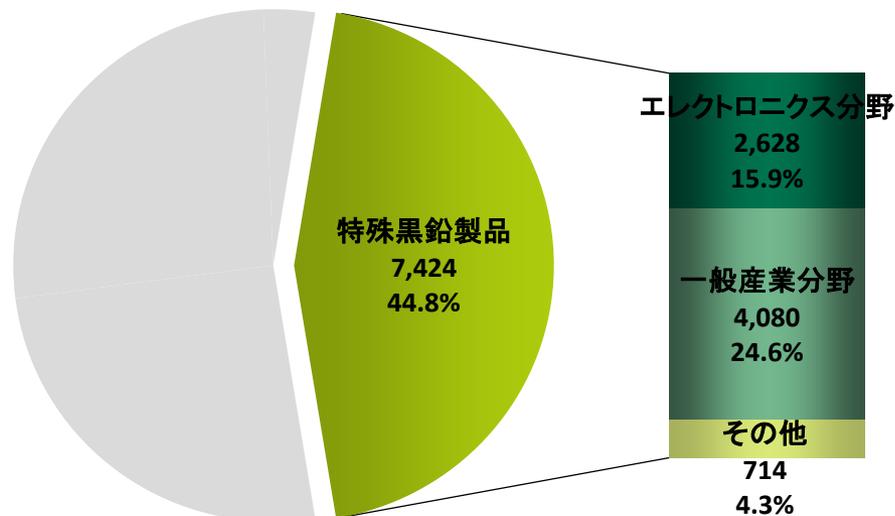
第1部 4. 製品・分野別売上高

(単位:百万円)



注) 2013年12月期より決算期を5月31日から12月31日に変更いたしました。このため2013年12月期は7ヶ月(一部子会社は9か月)の変則決算となっております。

<特殊黒鉛製品>



ポイント

【エレクトロニクス分野】

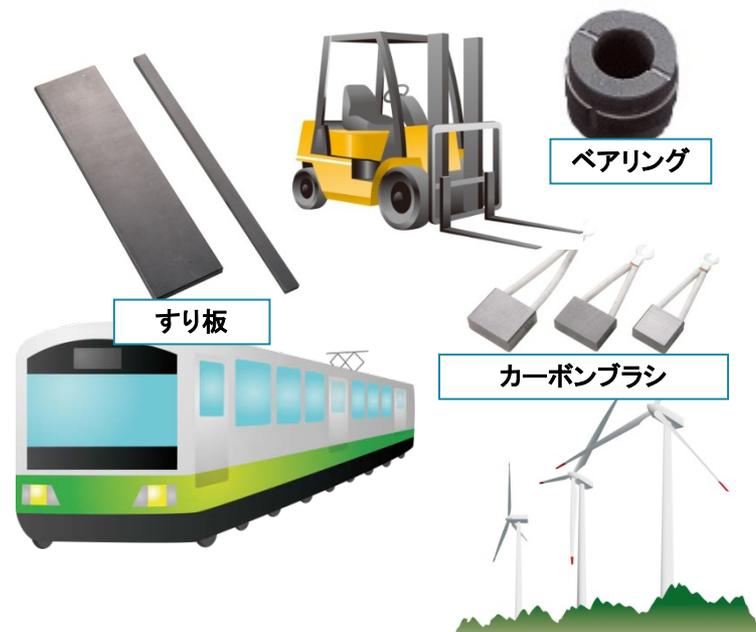
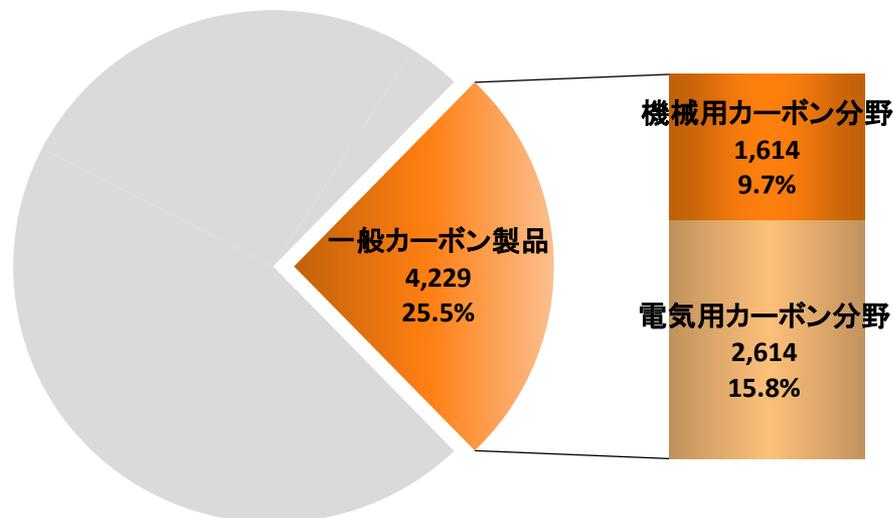
単結晶シリコン製造用: 半導体需要の好調を受け、各結晶メーカーともフル稼働状態が継続。ウェハー価格が上昇傾向にある中、各社とも供給が追いつかない状況であり、需要に応じた段階的な増産を検討しているものと見られる。

太陽電池製造用: 変換効率が高い単結晶ウェハーの需要急増により、中国の結晶メーカーを中心に大規模な設備投資を計画。また、結晶引き上げ炉の大型化にともない大型黒鉛素材の供給はタイトな状況が当面続く見通し。

【一般産業分野】

放電加工用は、タイヤにおける自動車向け回復の兆しを受け足元好調。連続鑄造用は、国内の建築関連・半導体向けを中心に高稼働継続。

<一般カーボン製品>



ポイント

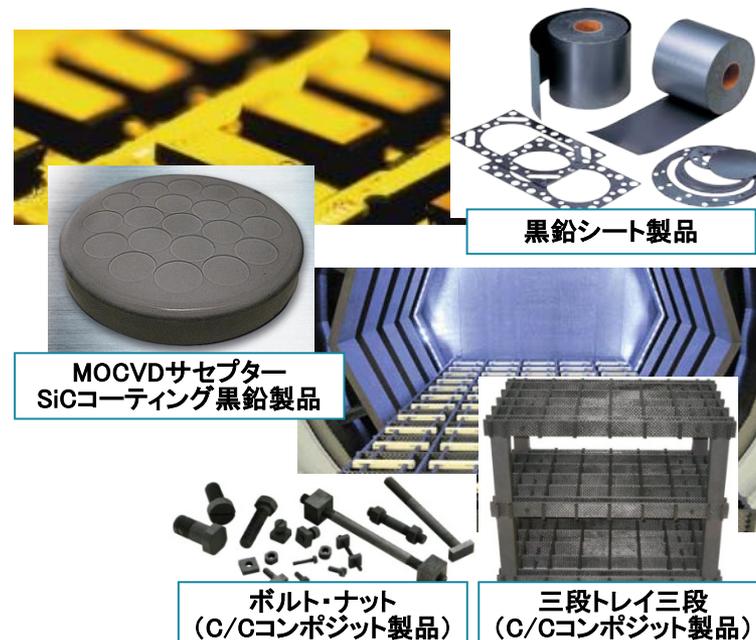
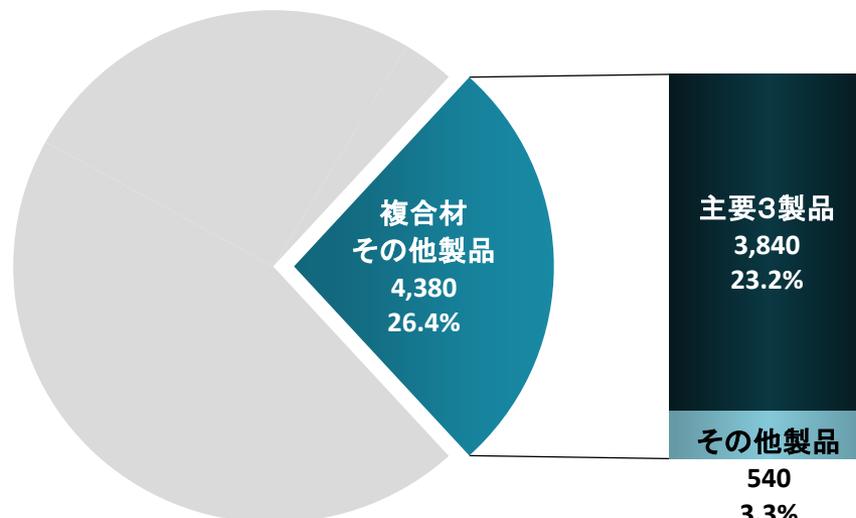
【機械用カーボン分野】

国内の軸受・シールリングなどの主力製品は、全般的に好調。パンタグラフ用すり板は、国内私鉄や海外新規案件の取り込みに向けPR中。また、自動車部品向けの供給も開始するなど、着実に目標を達成。

【電気用カーボン分野】

小型モーター用は、堅調に推移しているものの依然として競争が厳しく、この状況は今後も継続する見込み。グローバル製販チェーンの最適化を加速し、製造コスト低減による市場価格対応に取り組む。

<複合材その他製品>



ポイント

【主要3製品】

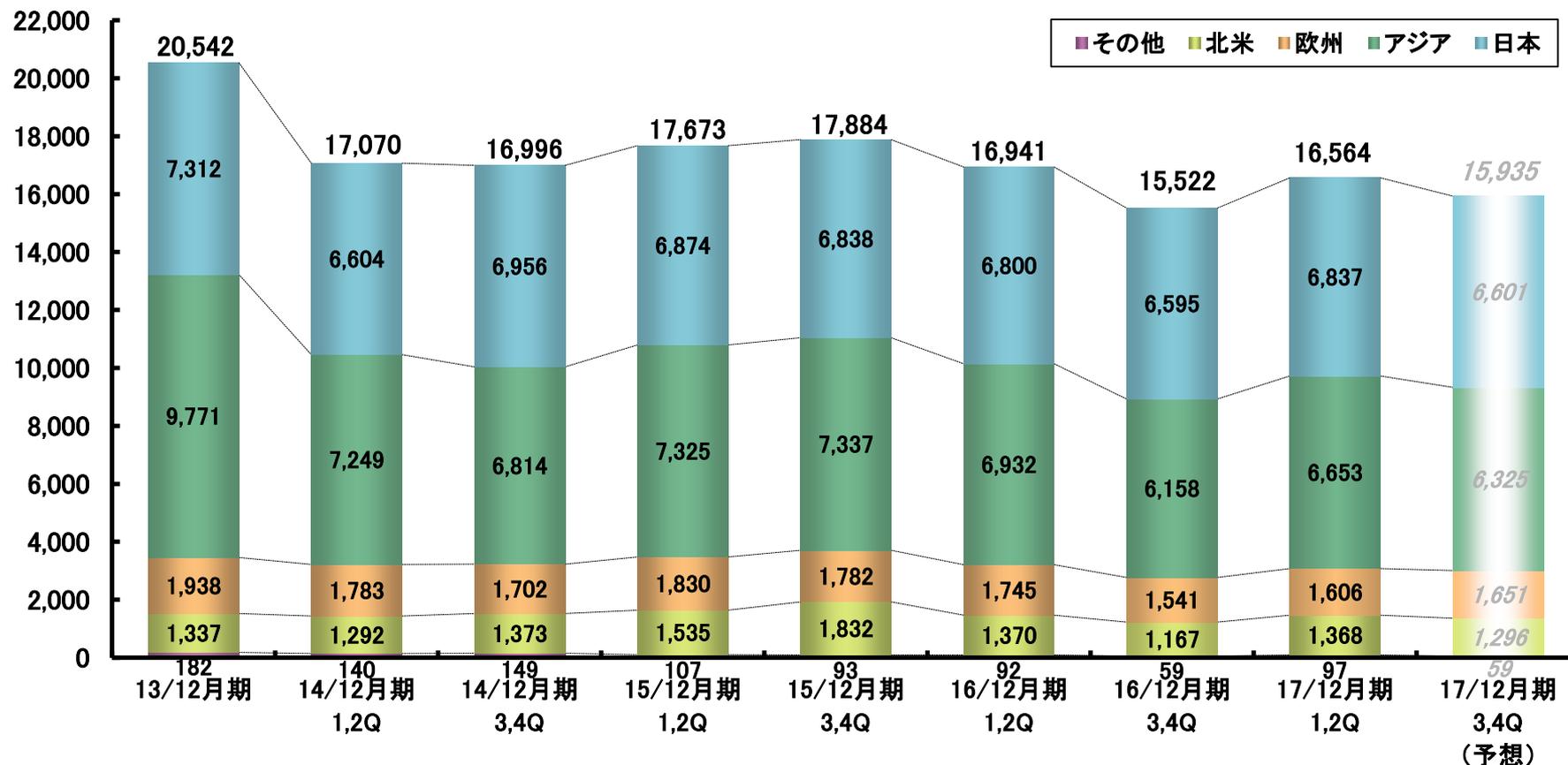
SiCコーティング製品: 各社ともフル稼働が続き、設備増強への動きも見られるなど半導体用は好調。LED用は、韓国での稼働が回復、国内も少しずつ稼働率が上がっており下期以降に期待。

C/Cコンポジット製品: 半導体用は好調継続。太陽電池用は多結晶の稼働率低下により苦しい状況。工業炉用は金属からの置き換えが徐々に進展しており、下期以降に期待。

黒鉛シート製品: 冶金用・自動車用・エレクトロニクス用とも総じて安定継続。

- ✓グローバルでの製販最適化に向け拠点統廃合検討中
- ✓アメリカ子会社は経営体質強化により今期ブレークイーブンを目指す

(単位:百万円)



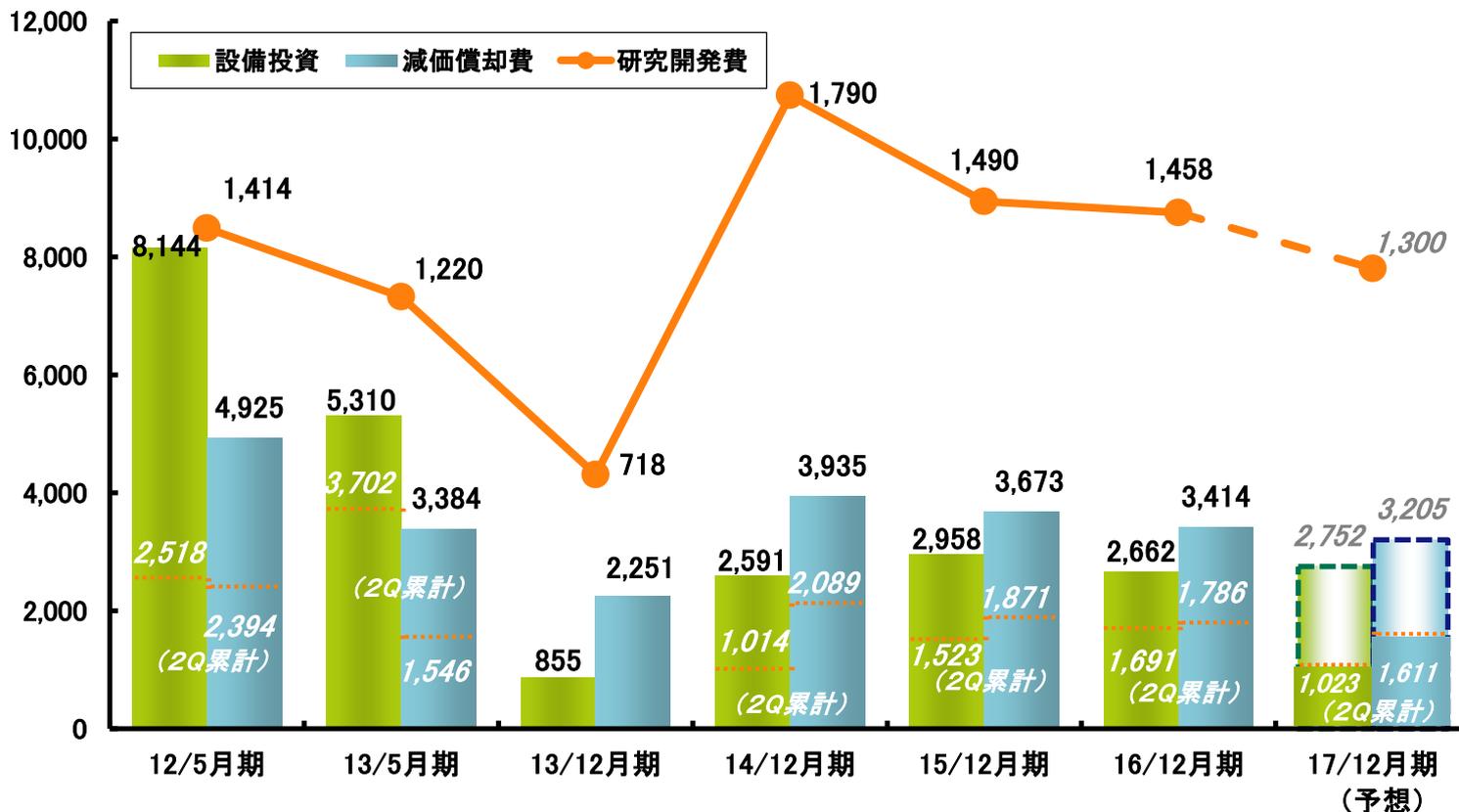
注) 2013年12月期より決算期を5月31日から12月31日に変更いたしました。このため2013年12月期は7ヶ月(一部子会社は9か月)の変則決算となっております。

第1部 6. 設備投資・減価償却費・研究開発費

- ✓ 設備投資、減価償却費および研究開発費いずれも概ね計画どおり
- ✓ 上期設備投資のうち約半分が機械用カーボン生産能力拡充のための戦略投資

(単位:百万円)

設備投資・減価償却費

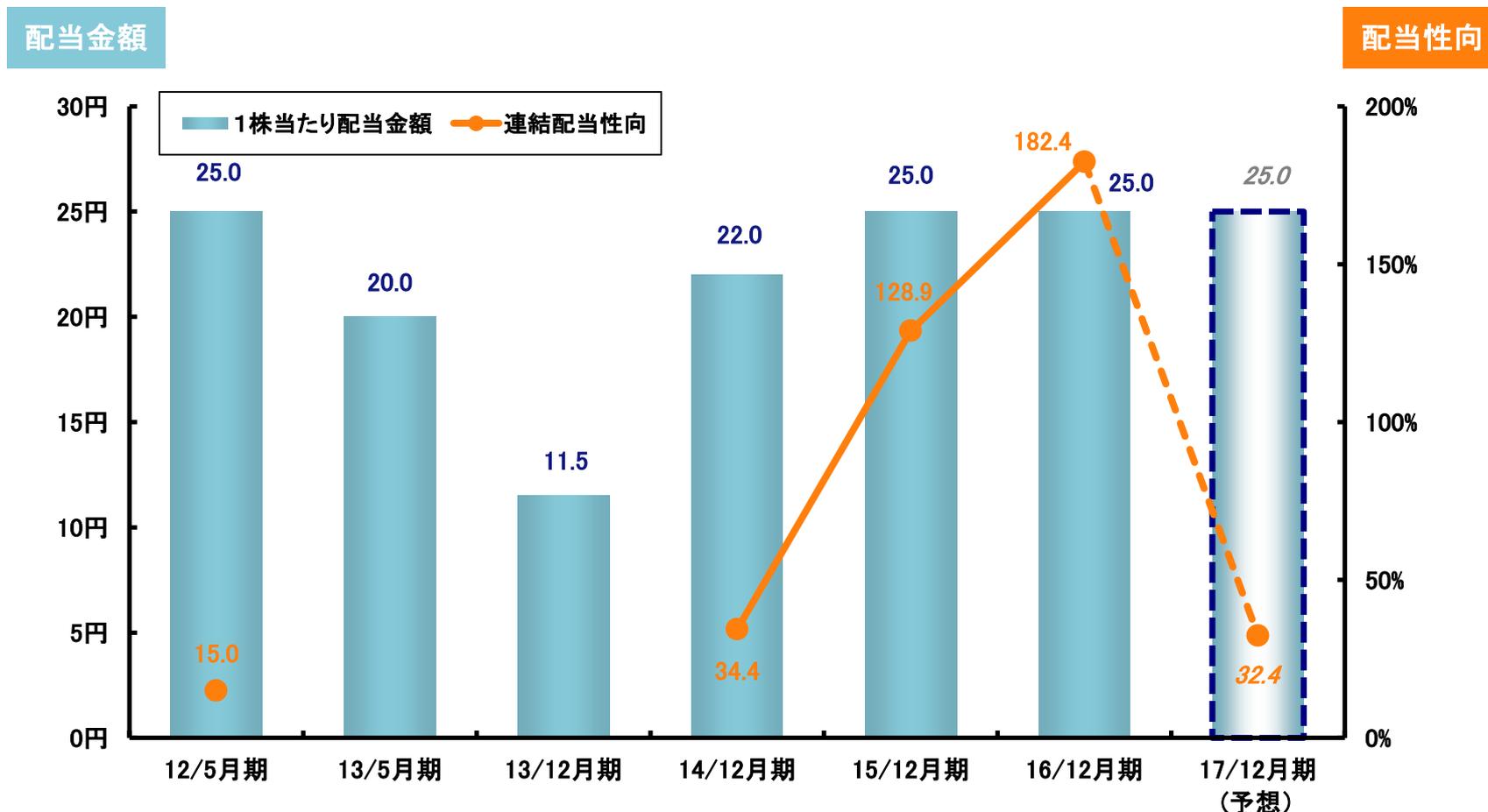


(単位:百万円)

研究開発費

注) 2013年12月期より決算期を5月31日から12月31日に変更いたしました。このため2013年12月期は7ヶ月(一部子会社は9か月)の変則決算となっております。

✓ 資本効率、戦略投資とのバランスを勘案しつつ安定した利益還元継続



注) 1. 2013年12月期より決算期を5月31日から12月31日に変更いたしました。このため2013年12月期は7ヶ月(一部子会社は9か月)の変則決算となっております。
 2. 2013年5月期および2013年12月期は親会社株主に帰属する当期純利益がマイナスであったため、連結配当性向については記載しておりません。

第1部 8. 2017年12月期第2四半期 連結貸借対照表・連結キャッシュ・フロー計算書

連結貸借対照表	(単位:百万円)			連結キャッシュ・フロー 計算書	(単位:百万円)	
	16/6月末	16/12月末	17/6月末		16/12月期 第2四半期	17/12月期 第2四半期
資産合計	69,327	69,797	69,559	現金及び現金同等物 の四半期末残高	7,116	4,915
受取手形及び売掛金	11,636	12,083	12,302	現金及び現金同等物 の増減額	▲ 30	▲ 1,509
たな卸資産	16,005	16,131	15,728	現金及び現金同等物 の期首残高	7,147	6,424
有形固定資産	25,769	25,421	24,703	営業活動によるCF	2,272	3,236
負債・純資産合計	69,327	69,797	69,559	投資活動によるCF	▲ 715	▲ 3,797
有利子負債	2,236	1,965	1,619	財務活動によるCF	▲ 832	▲ 925
資本金	7,692	7,692	7,711			
純資産	56,976	58,182	57,998			
自己資本比率	80.3%	81.4%	82.2%			

中国高温ガス炉向け黒鉛製品出荷 計画通り進捗中

- ・中国山東省での高温ガス炉プロジェクト(HTR-PM 当社売上規模30億円強)への黒鉛製品の出荷が順調に進捗。2基1セットのうち1基め組立て完成、現在2基め組立て中で、年内の出荷完了が視野に(既に売上代金の約7割受領済み)。
- ・この実績をアドバンテッジとして、中国次期プロジェクトおよび米国・ロシア・インドネシア・ポーランド等のプロジェクトにアプローチ中。



写真提供:中核能源科技有限公司

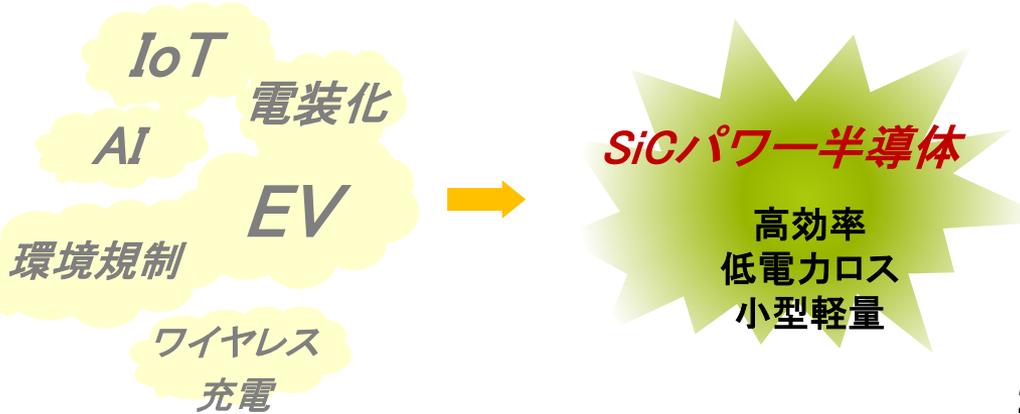
太陽電池向け中国合弁会社 合弁解消・持分譲渡が友好裡に完了

- ・嘉祥東洋炭素有限公司(当社持分55%)の中国側パートナーへの持分譲渡(約5億円)が完結。2006年の操業開始以来、中国の太陽電池市場の勃興・急拡大の波を捉え、大きな投資成果を以って役割を終了。
- ・なおこれも含めて、等方性黒鉛素材の年間生産能力を3,000t削減(18,000t→15,000t)し、市場規模対応と固定費削減を推進。

第1部 グリーン・イノベーション事業の進捗

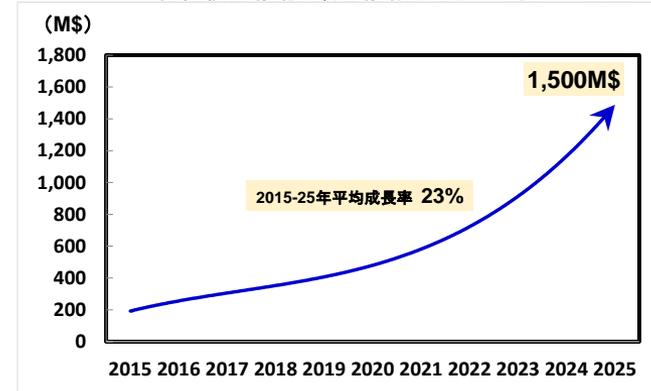
①SiCパワー半導体の夜明けと当社新技術

省エネの切り札「SiCパワー半導体」



SiCパワー半導体市場予想

各種統計情報・顧客情報をもとに当社にて作成



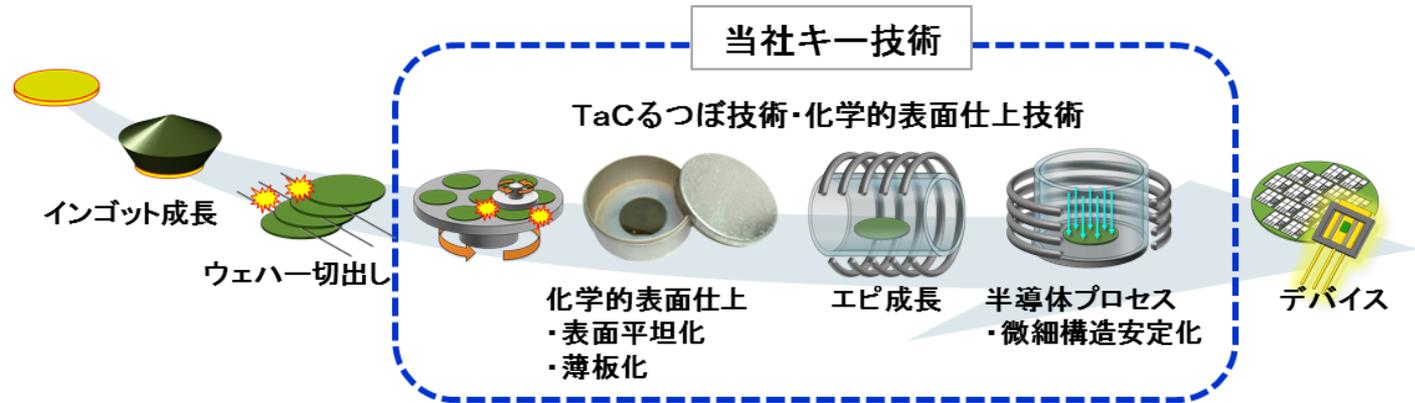
2020～25年に飛躍的成長 現状の7～8倍規模へ

当社独自技術がSiCパワー半導体の本格導入を後押し

現状の技術的課題: ウェハの潜傷・歪み・低歩留り

当社新プロセス

信頼性向上
歩留り向上
コスト低減
大口径化対応

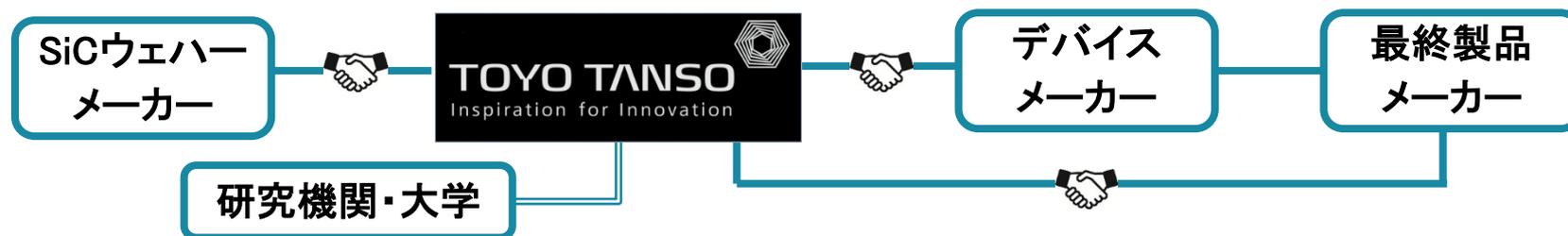


第1部 グリーン・イノベーション事業の進捗

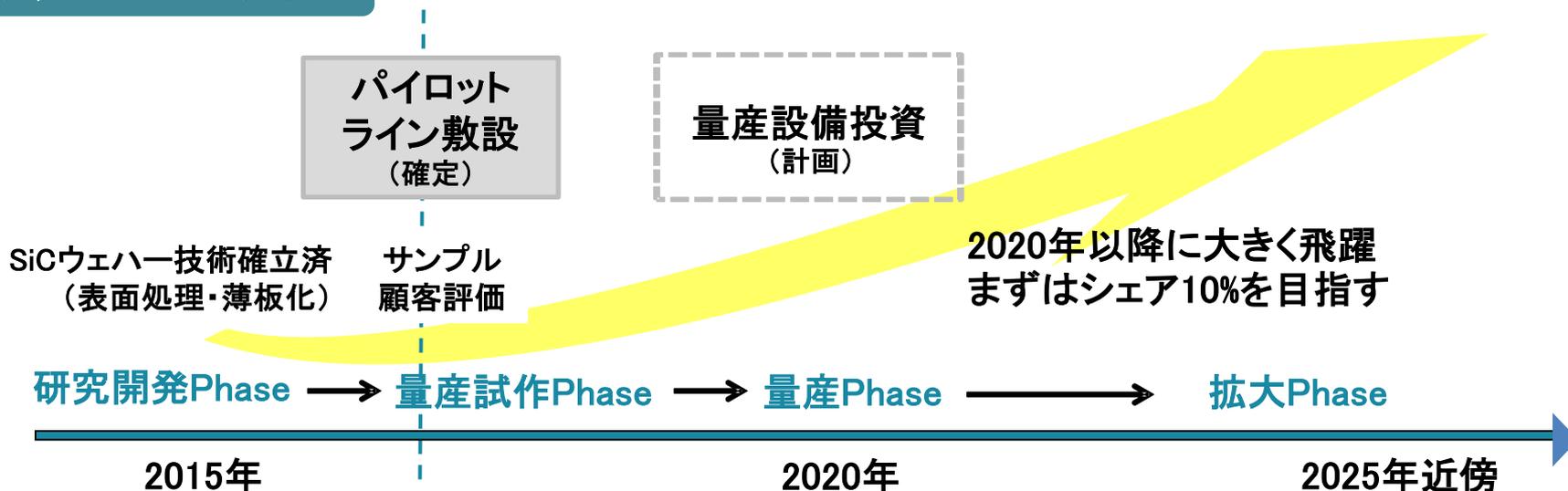
②開発から事業化へ ～飛躍への一歩

展開戦略

- ◆ ビジネスのキーはアライアンスによる新技術の“事業化とデファクト化”
- ◆ 当社新技術・プロセスを核としたバリューチェーンを構築すべく戦略的パートナーとの提携を検討中



成長のアウトライン



第1部 多孔質炭素(CNovel™)事業の進捗

①モノづくり展開の系譜



従来炭素粉末材料の
特性と性能を
掛け合わせ
制御した新素材



研究用から実装化形状まで
顧客ユーザビリティの向上
“目新しい”から“使いやすい素材”へ

社会的課題解決に対応するデバイスへ、
特異機能を有する独自材料を使った、当社としての**新事業ドメイン**への進出



独自材料

進出事業ドメイン

社会的課題



CNovel (powder, Sheet, Ink, pellet)



高機能領域

エネルギー

生体材料
センサー材料



医療機器
分離材料



LiB添加剤
次世代電池電極
水素エネルギー製造、化学触媒



生活を快適・省力化

ライフサイエンス

環境負荷の低減

マスバリュー

新種デバイスに向けて、バックキャスト適合させた展開が続伸
開発から実装ステージへ着実に進展

IoT, 自動化, 電化, ロボット化

消費者

第2部 事業構造改革から成長戦略へ

～進捗状況と検討状況～

市場環境も味方にしつつ、全社一丸の取組みにより概ね7~8合目に到達
~ 仕上げ(2018年)に向け引き続き取組み強化しつつ、成長に向けての仕込みを開始~

数値目標

限界利益率3ポイント改善

(2015年12月期対比)

★高採算品シフト・値戻し含めて現状2ポイント改善

固定費 20億円削減

(2015年12月期対比)

★国内外拠点統廃合等含めてもう一息の水準に

営業利益:30億円 当期純利益:20億円

★収益改善は順調に進捗 (当上期実績 営業利益:13.2億円 純利益:11.2億円)

重点施策

①事業の選択・集中

★高採算品、当社得意製品へのシフト加速
★個別採算・全体最適も踏まえての値戻し注力

②組織の適正化

★機動性重視の営業・開発・管理の組織改編
★中国合弁子会社の持分譲渡完結
その他国内外の拠点統廃合につき吟味中

③人員の適正化

★引き続き採用抑制・人員構成見直しを推進
(2015年対比:182名減)

④経営管理の強化

★内部管理強化継続(ガバナンス委員会設置等)
★米国を始め海外子会社のでこ入れ推進中
(人材の派遣含めて体制・オペレーション見直し)

- ◆ 構造改革で培いつつある筋肉質の事業基盤・企業体質を土台に、攻めの成長戦略実行に舵を切る。
- ◆ 新中期経営計画は、「既存コア事業の立て直し」と「事業ドメインの再定義」の2軸にて検討中。
- ◆ 当社“らしさ”を活かしつつ、過去の経験・枠組みに拘らず、“外向き”志向で新しい企業像を目指す。

事業構造改革（聖域なき改革と経営基盤強化）

- ・骨太の事業基盤・企業体質の確立
- ・意識改革（収益・企業価値を第一義）
- ・組織・人員の改編・適正化
- ・経営管理・ガバナンスの整備・強化
- ...

新中期経営計画（攻めの経営・成長戦略）

★ 検討途中

- ・既存コア事業の収益力回復
- ・新製品2事業の本格展開・立上げ
- ・事業ドメイン再定義し新分野進出
- ・M&A・アライアンスにより成長を増幅・補完
- ・資本・資産効率化、株主還元強化
- ...

持続的成長・企業価値拡大
（着実かつ大胆な実行）

構造改革
開始

新中計
検討開始

新中計
完成・開始

2016年

2018年

2020年

2022年近傍

第2部 3. 新中期経営計画(成長戦略)の青写真 ~検討途上~

既存コア事業

高付加価値品特化
(コーティング・C/C・原子力等)

ボリュームゾーン再構築
(最適地生産・事業形態再考等)

新規用途進出
(輸送機器・エネルギーデバイス等)

- ◆ 今後とも高付加価値を発揮できるコーティング・C/C製品等に徹底注力し収益拡大を追及
- ◆ 下支えとなるボリュームゾーン品については、最適な生産地や事業形態も大胆に再考し、トータル競争力の徹底追及により収益力の回復と安定化を図る
- ◆ 自動車用(機械用カーボン)への進出を先例に、M&Aも駆使しさらなる新規用途進出を図る

新事業ドメイン

既存事業基盤・顧客基盤
を活かす新製品・事業

複合材・組合せ製品
(カーボン×異素材)

要素技術*1を活用した
新分野進出(カーボンに拘らない)

*1 例えば粉体・熱制御・表面改質技術等

- ◆ まず新規2製品(多孔質炭素・SiCウェハー表面処理)の本格立上げ・展開
- ◆ オープンイノベーション・アライアンス・M&Aを駆使し、次の成長ドライバーを探索・創出
- ◆ ターゲット領域は、エネルギーソリューション(創エネ・省エネ・蓄エネ)・熱マネジメント・IoT・環境・浄化等の社会的課題解決&イノベーション分野*2

*2 例えば次世代エネルギーデバイス・熱エネルギー機器・センサー等

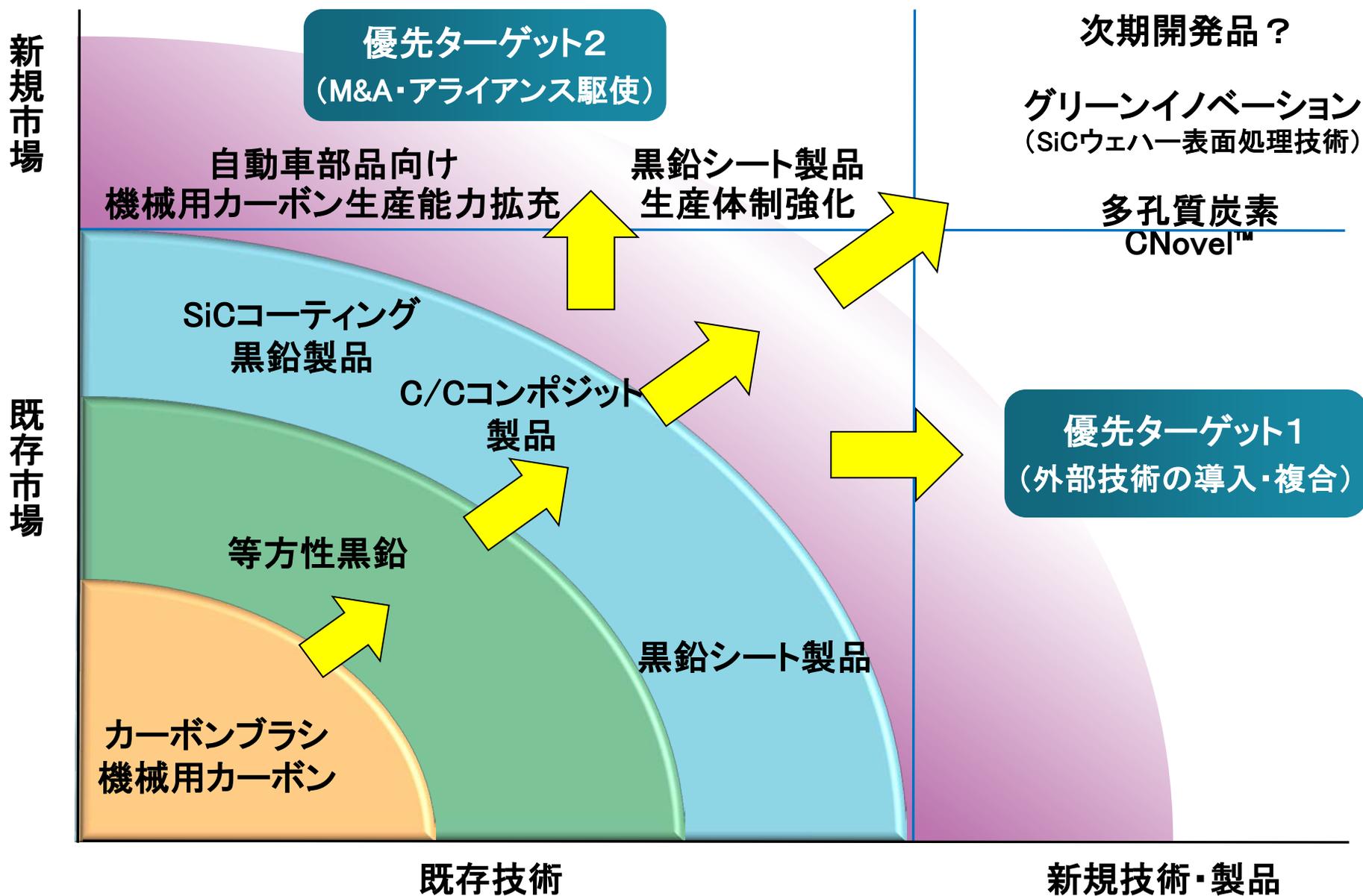
↓ 戦略投資枠設定



バランスシート適正化
(株主還元強化・レバレッジ活用)

ROEを重視

持続的成長
企業価値拡大



APPENDIX

カーボン業界

カーボンブラック

黒鉛電極

当社事業領域: 高機能・高付加価値分野に特化

特殊炭素

特殊黒鉛製品 (等方性黒鉛)

熱テクノロジーマテリアル事業部

- ・エレクトロニクス分野
- ・一般産業分野
- ・その他

- ・業界の供給能力見直し
- ・価格競争激化
- ・収益構造悪化
- ・太陽電池市場を中心とした中国ローカルメーカー台頭

一般カーボン製品

トライボロジー事業部

- ・機械用カーボン分野
- ・電気用カーボン分野

- ・比較的安定した収益構造

複合材その他製品

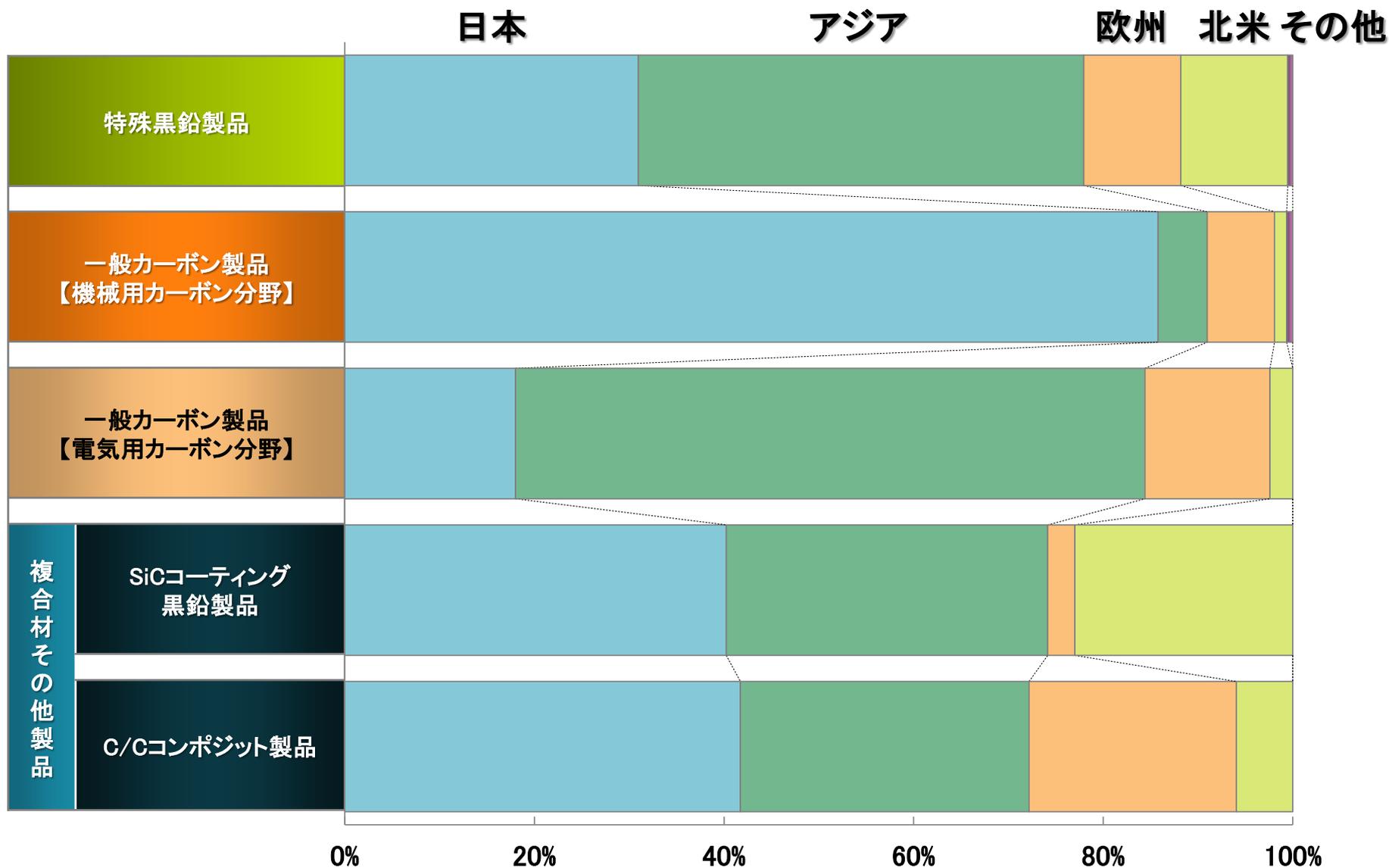
熱テクノロジーマテリアル事業部 高機能ケミカル事業部

- ・SiCコーティング黒鉛製品
- ・C/Cコンポジット製品
- ・黒鉛シート製品

- ・高付加価値製品群
- ・異素材との複合化等による新規素材創出の取組

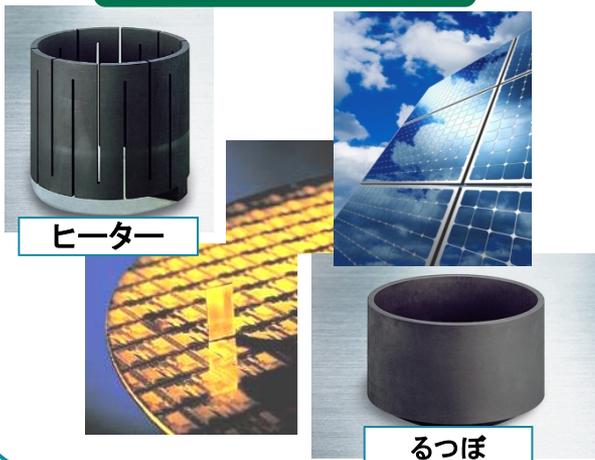
事業環境 2. 事業展開イメージ 領域

注力領域		エレクトロニクス領域			一般産業 機械領域	輸送機器 領域	電気領域	先端領域
		太陽電池	半導体	LED				
特殊黒鉛製品		◎	◎	○	◎ 価格競争 短納期要求			○
一般カーボン製品 【機械用カーボン分野】					◎	◎	○	
一般カーボン製品 【電気用カーボン分野】					○	◎	◎	
複合材その他製品	【主要3製品】							
	SiCコーティング 黒鉛製品	○	◎	◎				
	C/Cコンポジット 製品	◎	◎		◎ 他素材からの 置き換え需要			○
	黒鉛シート 製品	○	◎		○	◎		
新規 開発品	多孔質炭素 CNovel™							○
	グリーン イノベーション		○ 次世代 半導体向け					
事業環境・当社状況		価格競争	長寿命化	高品質要求		グローバル 展開強化		グローバル 展開強化



特殊黒鉛製品

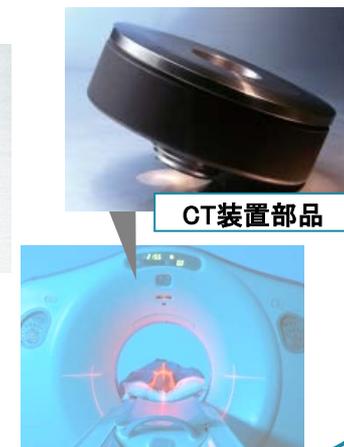
エレクトロニクス分野



一般産業分野

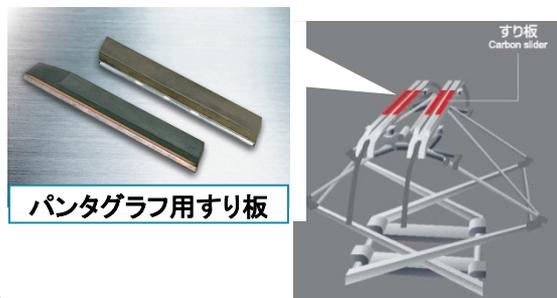


その他



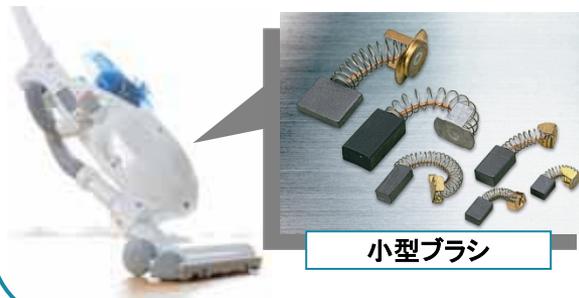
一般カーボン製品 (機械用カーボン分野)

- パンタグラフ用すり板
- 自動車部品
- ベアリング、軸受等



一般カーボン製品 (電気用カーボン分野)

- 発電機用ブラシ
- 掃除機用ブラシ
- 電動工具用ブラシ



複合材その他製品



TOYO TANSO

Inspiration for Innovation

(注) 本資料のうち、業績見通し等に記載されている将来の数値は、開示時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでいますので、実際の業績は、業況の変化などにより異なる場合があります。

<お問合せ先>

東洋炭素株式会社 広報・IR担当

TEL: 06-6472-5811(代) FAX: 06-6472-6007

E-mail: ir@toyotanso.co.jp